

あねした!

成人向
ONLY FOR ADULT ONLY

Presented by
色天使



西芽

姉ちゃんとも
してみました!



要牙

■ あねした！ 要芽 ■

<目次>

5p 「あねした! 要芽」
白猫参謀

20p 「要芽姉様の優雅な半日」
タカヒロ

○月×日△時□△分
事件当時、被害者の側に
居たのは凶器である
“マグナム”を手にした
被告人のみであります。

裁判所

また、関係者の証言によると
「俺のマグナムで殺してやる」
などと、被告は普段から犯行を
仄めかしていました

犯行現場付近の
飲食店でも同様の証言を
多数得ています

これらの証言により
被告人の有罪は
揺るぎようがないと
思われます…

鑑定の結果
被告人の
“マグナム”は
過去一度も弾を
発射した形跡が
ありません!!

異議 あり!!

また、彼の“マグナム”は
小振りなうえ、嚴重に
ケースに入っていました

従つて!!
彼の犯行は
不可能であり
弁護側は無罪を
主張します!!

弁護人の主張が
正しいように
思えます!!
被告人は無罪!!

これにて
閉廷つ!!!





カゼと過労の
合わせ技であるな…
このところ要芽は
働き詰めであ
ったからのう

要芽お姉様、俺に
仕事を覚えさせる
ためにいつもより
多めに仕事
入れてたみたい…

なるほどのう…
よい機会である
ゆっくり休ませて
やるがよい

看病は空也
お前に頼むぞ

他の妹たちでは
賑やかすぎて要芽も
ゆっくり休めぬで
あろうからな

うん、俺も
そうしたいと思っ
てたところだし、ま
かせてよ

俺がもう少し
しっかりしてれば
こんな事には
ならなかったかも
知れないしね…

まあそう
自分を責めるな

要芽の奴も
あれはあれで
お前と一緒に
仕事をするのが
楽しそうであ
ったしな



では
後は頼んだぞ

了解、みんなにも
要芽お姉様は
心配いらなからって
安心させてあげてよ

「楽しそうだった」
…かあ

足手まといに
なっただけで、俺
だったけどな、俺

これからは姉様達の
負担にならないよう
もつと頑張らないとな







では：
拭かせて
いただきまーす…

おちつけ、
看病だぞ、俺…
…とはいえ
病気で辛そうな
要芽お姉様も妙に
色っぽくて困る…
俺の股間が困る…



背中の方も
拭かないとな





スリ

あははは!!

おれ!!

あはは

は...



ちよっとくらい
いいよね...

000



アクセシデント
とはいえ...すごい
ドキドキする
シチュエーションだな

ふふふ〜
ちよっと
いいよね...



空也？
大人しく
していれ
ば少し調
子にば
りすぎじ
や
ないかし
ら？

サ、サ、セン

お目覚めで...



さわ...



!!



そんな身の程を
わきまえない弟には

オシオキが
必要ね



ふふふ
こんなに固くして
困った弟ね…



!?



アッ〜



姉様…もう
出そうです

くわ

フフ…
だらしないわね
まあいいわ

くわ



解 熱 薬
座薬



今すぐ
放しなさい!!

ちよつと
やめなさい
空也!!
そんなもの
冗談じゃないわ!!



だまれよ
全然大丈夫
ではないわ!!

姉様大丈夫ですっ!!
任せてください!!



うにゅにゅ...





お姉様、ちょっとだけ
おしりの力を
抜いてください

力むと薬が
押し戻され
ちやいます

つべこべ言わずに
その節操なく
突っ立ててるモノを
使いなさい!!

うるさい
黙れよ…
指でダメなら!!

はいっ

おしり…

では…
ご命令に従って…

おしり…

はい









「要芽姉様の優雅な半日」 夕カヒロ

水の弁護士は、いまだ業界で注目の的だった。黒を白に変える奇跡の女とまで言われている。彼女の才覚を求めて多くの人間が事務所を訪れる。だが彼女は一定の美学に基づいて行動しており、「工場の公害問題はお請けしていません、お引き取りを」あまり泥臭いものはやらない。また依頼人の品格も重要なチェックポイントだ。秘書の秋山いるかは言う。「んーなんか最近さらに、仕事をえり好みしますねえ」「いるか、何ブツブツ言っている。仕事!」「は、はい! 馬車馬のように、いるか船のように働きます」「いるか船? 何それは」「馬車は馬が引つ張るものです。ならいるかが引つ張るものは船かと」「くだらない……いたぶるぞ」「スイマセン! そんな理不尽な物言いにも、ひたすらにすいませんっ!」「まあいいわ摩周くん、次の客は誰だっけ」「摩周の顔が曇った、よくない客らしい。」「……ドバイのミスファクトリーの総帥、ミスマ様です」「ドバイの。それはまあ、凄いお金持ちが来たわね」「ミスファクトリーは摩周財閥が警戒している世界的大企業ですよ」「それが何故私に用なのかしら……ああ私が目的かもね」要芽はフウツとため息をついた。その妖しいまでの美貌から、誘いが山のように来るのだ。名家の綾小路家から嫁に来ないか、とか。大企業の社長から囲われたいか、とか。要芽にとってくだらない話である。元からそんなゲスなど眼中にないのだから。

客人の男が入ってきた。「おお、美人だなあ、終要芽え」ドバイにある大企業の社長・ミスマが要芽をジロジロ値踏みしながら見ている。背後には彼の屈強なガードマンが4人もいた。またミスマ自身も相当な使い手のようである。「実に美しい。日本美人だな。黒髪、綺麗でそそる」「それはどうも」要芽は冷静に受け流した。こういうことには慣れてる。「どうだ。地下資源を支配しているこのミスマの女にならないか」「金は思いのままだぞ。1ヶ月で1億やろう」「もう、ハリウッドスターは抱き飽きたからな。グハハハ」ここまで俗物だとある意味清々しい。要芽はフウツとため息をついて「お断りします」そうドバイの成金オトコに告げた。「なに? 莫大すぎる金が手に入るのだぞ」「金の問題ではありませんミスマさん」「男性の好みにはうるさいもので……貴方は該当しません」「……ほう……」「さあそれよりもご用件を」「威勢のいいメスだ、気に入った。ますます俺の女にしたいぞ」「これでどうだ。1ヶ月で10億だそう」「じゅ、10億?!? 天文的すぎます!」秋山いるかと思わず絶句する。「10億ってとんでもないですよ摩周さん。魚肉ソーセージ何本買えるんですよ」「うるたえるな、いるか。みつともない」「す、スミマセン!」「お前には10億の価値があるというのだ、終要芽」「お姉様……10億……凄すぎ……というか私はいくらでしょうか」ミスマがいるかを見て鼻で笑った。「まあ、1万50000円だな」「XIBOX360より安いっ!?!」「うるさいというのに……騒がしいいるかね」

要芽が呆れる。

「まあこれで終わるわけでもないですけどね……」

エリカの心は全く折れていなかった。

「この件の弁護担当をお願いするわ」

「……ふ、まさしく黒を白に変える仕事ね。まあ任せなさい」

「頼もしいわ氷の弁護士」

「少しずつ、不安材料を潰して反撃していかないとね」

「その分だと反撃の手段も考えてそうね」

「もちのローン」

金髪を揺らしながら、エリカは不敵に笑う。

「親の尻ぬぐいをしながらも、手は打ってるわ」

たくましいな、と要芽は思った。

エリカを見ているとネコ目、金髪ポニーというコトで瀬芦里とかぶる。

なので要芽はどうしてもエリカびいきであった。

頭脳派と体力派の違いはあれど、ふてぶてしい事に違いなかったが。

――夜、終家。

海産物がメインの夕食だった。

「ほう、今夜のカキは大きいなあ巴」

「うん、漁師のおじさんが譲ってくれたんだ」

最近、巴は朝の市場に空也と良く出入りしていた。

料理の腕をさらにあげたいから、まず食材を良いものに。

毎朝姿を見せていると、オジサン達からチヤホヤされた。

「ほら、巴ちゃん。あえてとらずに数年寝かせて、でかくさせたカキだ。

安くするぜ」

「こっちはサザエ。これもでかいだろう？ まけるよ」

――こんな感じで安値で売ってくれるのだ。

「にやはっ！ おいしーぞモエ！」

「こんなに大きなカキ食べるのはじめてだよ」

「あはは、喜んでもらってよかった」

「今の私は趣味が魚市場ってぐらいに通ってるから……自信はあるけどね」

「フフン、巴姉さんみたいな年頃の娘が趣味魚市場？」

「はは、それもいいなと思ってるよ」

「地元の人と触れあう。いい事ではないか」

「このサザエの壺焼きも、美味しいわね」

「あは、いくら安いと言ってもサザエやカキを

一杯仕入れてくれるのは、要芽姉さんが稼いでくれるからだよ、ありがとう」

「フフ、何を今更言っているの。当然よ」

「うむ、要芽は良い子だあ」

「そのサラダもきちっと食べるように我が見届けよう」

「ちっ」

終家の食卓は、相変わらず賑やかだった

気持ち良く食事し、ワインで酔いもまわると――。

要芽は少し、体が熱くなった。

弟に

「部屋に來なさい」

と軽く耳打ちする。

こういうだけで空也は喜んでやってくる。

可愛い可愛い弟を、愛でる。

これも要芽の極上の楽しみだった。

この可愛い弟に比べれば、ドバイの成金王など塵に等しい。

「おいで」

照れながらやってきた弟を、下着姿で出迎える。

「さあ、いらっしやい空也」

2人は自然に唇をあわせた。

最近、弟とこういうスキンシップを重ねる回数が増えてきた。

「うう……ン……空也」

甘い吐息が、早くも漏れはじめていた。

「姉様」

耳たぶをはむはむと噛んだり舐めたりしてくる。

「空也……うまくなつたわね、ン」

「姉様には早漏早漏言われて鍛えられたから」

弟がびったりと体を密着させてくる。

そうして優しく体全身を愛撫してきた。

「あら、でももう元気なのね……やっぱり早漏はなおらないかしら？」

「ふふ、いつもそんなことをいつて」

白いフトモモで空也の勃起をすりすり擦り上げてやる。

すると空也も勃起を女体にすりつけてきた。

そうしておいて、鎖骨やへそなどを丹念に愛撫する。

「ん、く……」

昔みたいながつつきは消えていた。

弟が生意気にもテクを身につけてきている。

「お姉様、綺麗……」

「んう……もう、生意気」

要芽は空也の下着をずらした。

そそり立っていたペニスがまろびでる。

「ふふ、たくましいわね」

膝立ちの空也の股間に、要芽は顔を埋めた。

四つん這いの格好で、弟のペニスに舌を這わせた。

「ちゅば……ん……れろ……」

弟の先走りの味が、口内にひろがる。

「姉様……気持ちいい……んあ」

空也も、耳や胸など敏感な所を刺激してくる。

「ん、あ」

だんだんと弟の手の動きが大胆になる。

すると要芽もくわえているペニスをさらに深くへ飲み込む。

「ん……はむっ、ちゅ、れろ……じゅる、じゅる」

口の粘膜で空也の怒張を包んでいく。

「ちゅる……じゅっ、じゅる、れろ、れろ」

弟のペニスを頬張って、姉は頭を動かし始める。

「ふああ、姉様……」

（ふふ……）

四つん這いの格好でも喘いでいるのは弟の方だった。

主導権を握っていると要芽は気分が乗る。

要芽が空也の袋をゆっくりと揉み上げる。

「姉様、凄い……ン」

「でもすぐイかなくなつたわね、偉いわ」

「我慢しているんだけど……」

「フフ、どこまで我慢できるかしら？」

要芽が、甘い鼻声を出しながらペニスを舐めていく。

ヌラリとした舌が、弟のサオをねっとりとのぼる。

「姉様の睡でベトベトだ……」

「好きでしょうで、こういうの。まだまだ……」

まず裏側に唾液をまぶしこんでいく。

そうして左右両側へも、みっちり舌で塗りつける。

「どんだん溢れてくるわよ……ちゅ、ちゅるっ、ごくん」

亀頭に吸い付き、先走りを飲んだ。

そうしつっ、亀頭を丹念に愛撫していく。

「そろそろかしら……」

「まだ大丈夫……んあ」

再びペニスを口に含んで、長い黒髪を揺らしながらストロークを開始する。

要芽としては、トドメの奉仕だった。

だが空也がイかない。

それどころか、揺れる双乳を好き放題に揉んできた。

「こら……ンッ、あ！」

乳首も指で摘まれ、刺激された。

「んう……こら空也……はむ」

乳首を転がすと要芽のむっちりとしたヒップが揺れる。

「エロい感じ……姉様」

「調子に乗りすぎ……ん、んふ、ン……」

要芽は根元近くまでペニスを咥えこんだ。

そうして唇で強く締めつけながら口を動かす。

「くうっ……あ……凄い」

姉の熱心な愛撫に、空也は腰が溶けそうになった。

氷の弁護士がしゃぶり抜く姿を見て空也も射精に追い込まれる。

「くうっ、でる！」

「……ん……ン」

大量の精液が、口内に出された。

「ごく……ごくっ」

弟の精液を、姉が喉を鳴らして飲んでいく。

こっそりした感じが要芽は嫌いではなかった。

「ああ……姉様あ……」

弟の甘つたれた声が耳に心地よかった。

要芽がふとベッドで目を覚ます。

珍しい事だった。

「Zzz」

隣では愛しの弟が爆睡していた。

その横顔を観察する。

「……大人っぽくなってるわ」

男らしくなっている。

弟も成長している。

再会してからもう随分と時間が経過している。

家族が元気なのはいいが……時は流れていくわけで。

弟もいずれ、クールなオトコになるのだろうか。

「ま、だからといって、主導権を渡したくないわね」

姉と弟の関係であるいま、それは重要だった。

「おやすみ、空也。また明日」

そう言って要芽は空也に口づけして、そっと目を閉じた――。

後書き タカヒロ

お買い上げありがとうございます
タカヒロです
いつものようにSSを書かせて頂きました

実は今回エロは書かない予定だったんですが
白猫さんの表紙を見た瞬間、
「やっぱり俺エロかク！」
とムラムラしてしまい、あんな感じに。

今、あのキャラ達はどうしているのかみたいに
文章書いてます。
柊宗が変わらずに皆元気なのは嬉しい限り。
これからモ時々柊宗は書いて行きたいですね。

ともねえ本→要芽姉様本ときて次はどこ行くんでしょうか

本命 姉貴
対抗 瀬芦里ねえねえ
大穴 ぽえむねーたん

ねえや？ そりゃねえや！

嘘ですねえやでも喜んで書きます。

そういえばこの前、ジャンプに要芽姉様が出てました
と思ったら羽衣狐・現在の姿でした。

現在8月初旬ですが早くオールライダー対大ショッカー見てえ！
Jさん味方にいるだけで負ける気がしないですね！
アーマーゾーン(棒読み)はなんとかならなかったのが。

それではまたどこかで会いましょう
自分の本より長い後書きでしたー。

2009年 8月16日 タカヒロ



お買い上げありがとうございます、白猫参謀です。

今回は要芽姉様にスポットを充ててみました。

攻め専の氷の弁護士も、たまには攻められるのもよからうと思いこんな話しをでっち上げてみましたがかすど展開が強引過ぎだったかも知れない…反省。

実は今現在、私も夏風邪進行中でして…

私のケツ穴にも誰か座薬を挿入…あーっ！

さて、次は誰を描こう。ペリソナ4本も描きたいなあ。

では、またお会いしましょう！





- 発刊 2009年 8月16日
- 発行: 色天使 代表: 白猫参謀
- 印刷: サンライズパブリケーション 様
- 連絡先:
URL:<http://www2.tky.3web.ne.jp/~smdw/>
メールアドレス:smdw@tky3.3web.ne.jp
- 18歳未満の購入、閲覧を禁ず
- 作者の許可無く無断で転載・複製を禁ず

姉ちゃんごめんなさい!



変身